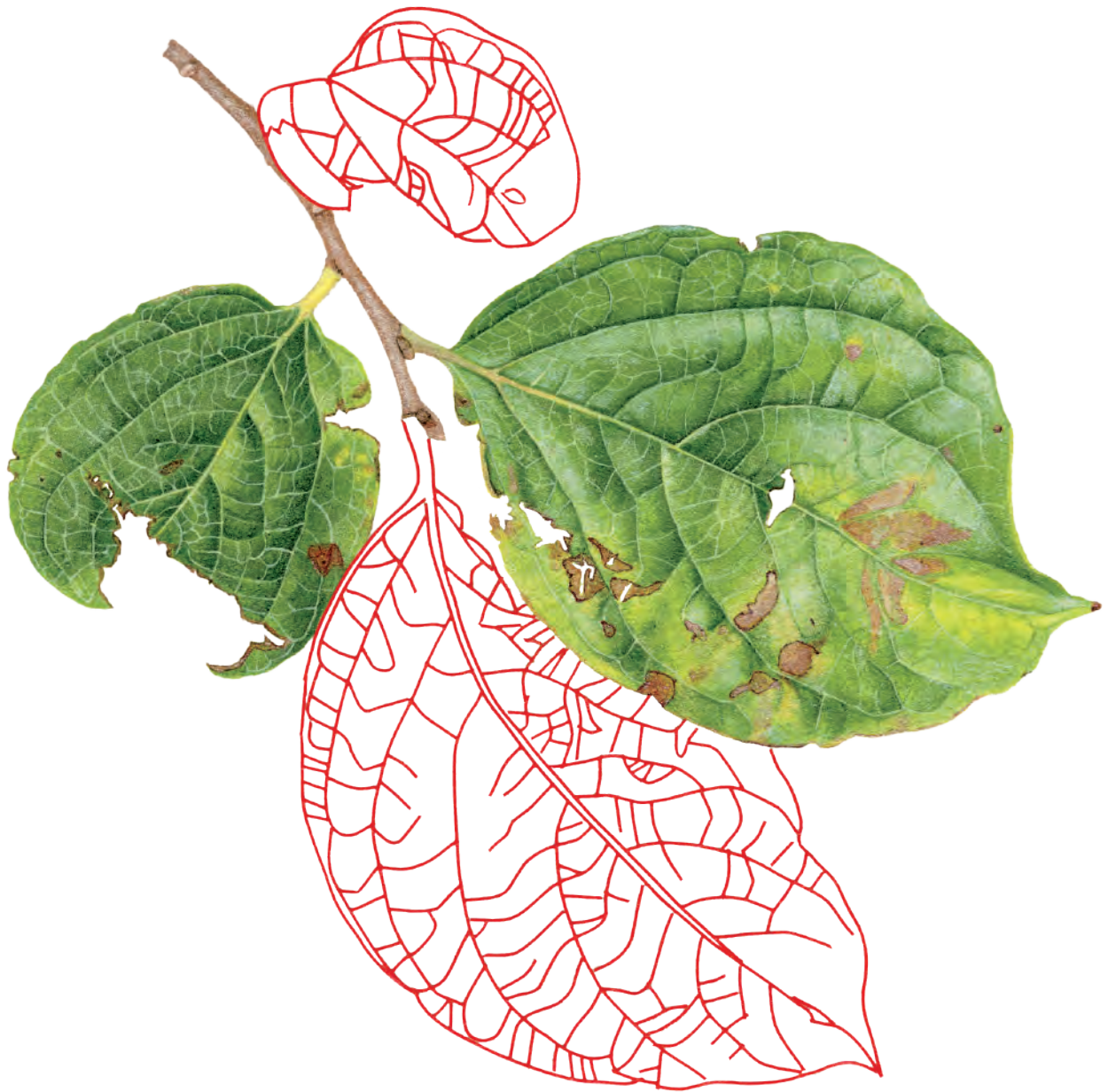


YAMATO Nature Circle



2026年7月

葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち Vol.89

— 絵と文 群馬直美 —

新境地《シブガキ》

4～5年くらい前からだろうか。
時の流れがやたらに速く感じられ、「時間がない」といつも焦るようになったのは。
周りを見回すと、そんな状況に陥っているのはわたしだけではないようだ。
宅配便のお兄さんも、たくさんの荷物を抱え「時間がない、時間がない」と走り回っていた。
ビオトープ園散歩でも、描ききれないくらいたくさんのモデルを採集してしまうのは、
その影響なのかもしれない。
昨年9月29日のヤマトビオトープ園散歩でも。
——4枚の葉をつけたシブガキの小枝と黄色くなったユズリハを2枚、
クヌギの落ち葉、青柿とザクロの実を採集し、立川のアトリエに持ち帰った。
イチオシはシブガキの葉っぱだったが、葉の枚数にたじろぎ、
以下のような《シブガキ計画》を立てた。

その1 ●5月になったら、緑の葉をテンペラで、
紅く色づいた葉は極細テープを貼って描く
その2 ●秋になったら、テープをはがし紅い葉もテンペラで描く

あたためること8ヶ月。待ちに待った5月がやってきた。
予定通り《シブガキ計画 ●その1》にとりかかる。
実際に描いてみると、想像以上の不思議な絵の出来栄に驚き、
「時間がない」と焦る気持は、ひょっとしたらシブガキの渋味成分と
同様のものだったのかもしれないと思えた。
シブガキは、タンニンという渋味成分が表に立ち現れているが、
じつは甘柿よりも糖度は高いのだそうだ。
「時間がない」と焦る心が導き出した新境地。



《表紙の絵》シブガキの葉

「秋の柿の葉の絵。
6月の柿の葉と見比べてみてね。」

・ヤマトビオトープ園にて2025年9月29日採集
(作品の完成日は、2026年5月27日)
・紙(ファブリアーノ エキストラホワイト極細目640g)
/テンペラ・マスキングテープ0.5mm
・size:390mm×280mm ©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、「葉っぱ」をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。2006年より世田谷美術館「美術大学」で葉画講師として身近な葉の美しさ、素晴らしさを伝え続けている。2019年、『下仁田ネギの一生』の組み作品で、英国王立園芸協会主催植物画展で金賞及び最高賞受賞。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』『Dancing Vegetables 踊る野菜』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>